

結核コホートによる治療成績を使用した院内 DOTS の評価

永田りん太郎* 西山由美子 五百川明子 中山雅子

国立病院機構鳥取医療センター2 病棟

Evaluation of in-hospital DOTS using the treatment results of tuberculosis cohorts

Rintaro Nagata*, Yumiko Nishiyama, Akiko Iogawa, Masako Nakayama

The 2nd Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence: byoutou2@tottori-iryo.hosp.go.jp

要旨

A 病院 B 病棟では、院内 directly observed treatment, short-course (DOTS) を実施し、入院中の確実な内服と退院後の内服継続に繋がるように、内服の習慣付けを支援してきた。しかし、退院時に内服の習慣化を評価することは難しく、また退院後の内服状況調査を実施できていなかった。厚生労働省による「日本版 21 世紀型 DOTS」において、退院後の患者の服薬を支援するために、保健所とコホート検討会を行うことが推奨されている。そこで今回、A 病院では初めてコホート検討会を行い、院内 DOTS の評価を試みた。コホート検討会により、本 B 病棟の結核入院患者 9 例につき、退院後の服薬状況や治療成績を把握することができた。退院後、いずれの例も脱落・中断なく内服継続ができており、治療完了あるいは治療中である事から、院内 DOTS の教育指導と服薬支援は良好であったと評価した。今後も、定期的にコホート検討会を開催し、院内 DOTS の評価と見直しを継続することが重要と考えられた。鳥取臨床科学 6(2), 103-110, 2015

Abstract

One of the wards of Hospital A has implemented an in-hospital directly observed treatment short-course (DOTS) in order to support patients for medication adherence during hospitalization until after discharge. However, it has been difficult to evaluate the extent of medication adherence at discharge, and the hospital has been unable to investigate patients' post-discharge usage of drugs. In the "Japanese Version of DOTS for the 21st Century" developed by the Ministry of Health, Labour, and Welfare, hospitals are recommended to hold cohort study meetings in cooperation with health centers in order to support patients' post-discharge medication. In the present study, Hospital A held cohort study meetings for the first time, and evaluated the hospital's DOTS. Through these meetings, the hospital was able to clarify the post-discharge drug usage and treatment results of 9 tuberculosis patients hospitalized on the above-mentioned ward. During hospitalization until after discharge, these patients continued to take their drugs without discontinuation or interruption, and they either achieved treatment completion or are still under treatment. On this basis, the education and medication support provided through the in-hospital DOTS were favorable. We suggest that it is important to regularly hold cohort study meetings in order to evaluate and review the in-hospital DOTS. Tottori J. Clin. Res. 6(2), 103-110, 2015

Key Words: 結核, 服薬支援, 院内 DOTS, コホート検討; Tuberculosis, medication support, in-hospital

はじめに

A 病院は C 県における結核診療の 3 拠点病院の一つであり、C 県および隣の D 県北部地域で発生した入院を要する結核患者の大部分を受け入れている。18 床の結核病棟を有する B 病棟がその役割を担い、院内 DOTS を積極的に推進し、結核患者の看護について絶えず検討を重ねている^{1,2)}。入院患者は院内 DOTS にて内服継続を達成し、異なる 3 日間の抗酸菌塗抹検査陰性が確認され、退院後に内服継続ができる状況を保健所との DOTS カンファレンスで確認後、退院となる。しかし、感染症法で定められた入院期間は治癒に至るまでではなく、患者は退院後も長期間の内服継続が必要となるため（最短で内服開始より 6 か月）、入院中に内服継続の習慣を身につけることが望ましい。退院時に内服の習慣化を評価することは必ずしも容易ではなく、またこれまで退院後の内服状況調査を実施できていない現状であった。

厚生労働省による「日本版 21 世紀型 DOTS 戦略推進体系図」³⁾の中においても、保健所、医療機関、結核診査協議会委員が参加し、治療終了者の治療成績のほか、保健師の患者支援の評価、DOTS 事業全体の評価を行うためにコホート検討会を行うことが推奨されている。そこで、A 病院において今回初めてコホート検討会を開催し、退院患者の服薬状況や治療成績を把握し、あらためて院内 DOTS の評価を行なったのでここに報告する。

用語の定義

院内 DOTS: 対面で看護師が患者の抗結核薬の内服を見届けること。

DOTS カンファレンス: 個別患者支援計画の作成・評価・見直しの場であり、入院中はもちろん、退院後も視野に入れた服薬支援の方法を病院と地域が連携して検討を行う場である。

コホート検討会: 治療終了者の治療成績ほか、患者支援の評価、地域 DOTS 事業全体の評価を行う場である。

結核コホートによる治療成績の判定: 抗結核薬の内服状況、結核菌検査の結果による治療成績の判定。

I. 研究目的

コホート検討により院内 DOTS を評価する。

II. 倫理的配慮

収集したデータには、個人情報が含まれているため、資料作成時には個人が特定できないように配慮した。また、研究結果を公表する際にも、すでに個人が特定できないように配慮されており、匿名性は守られている。なお、本研究は病院内の倫理委員会の承認を得ている。

III. 研究方法

1. 研究期間

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日。

2. 対象

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日に A 病院の細菌検査室で、臨床検体（喀痰・胃液）から菌検査により結核菌が検出され、B 病棟の陰圧病床に入院した結核患者 10 例を対象とした。

3. 研究方法

- 1) 該当する結核患者について、入院カルテおよび外来カルテより必要な情報（性、年齢、治療歴、結核菌検査の結果、院内 DOTS における支援方法と服薬状況、治療の経過、転帰、内服に対する反応）を抽出した。
- 2) 保健所へ、コホート判定と地域 DOTS の内服状況のデータ提供の協力を依頼した。
- 3) 保健所とのコホート検討会を平成 24 年 7 月 6 日に実施した。
- 4) 3)のデータを基に、院内 DOTS を評価した。